TOYOTA NURSING COLLEGE

トヨタ看専学校だより

発行
トヨタ自動車株式会社
トヨタ看護専門学校
発行人　金澤寛明
編集人　堂山岳之

入学式を終えて～私の心構え～

1学年（34期生）　山口　瑞花

四月二日、入学式が執り行われ、トヨタ看護専門学校での生活がスタートしました。新型コロナウイルスが全世界に与える影響は凄まじく、入学式も中止だけでなく始業も不可能な学校が多い中、最大限の対策をした上で私達三十四期生の入学式は執り行われました。このような状況の中でも入学式を準備してくださった先生方にとても感謝しています。

式典前に何度も練習し無事に入学式が執り行われたことを通して、私達にとっても学校にとっても入学式は、大切な行事であるということを強く感じました。これはトヨタ看護専門学校に限らず、どの分野の学校においても同じことがいえると思います。しかし、中止になってしまった学校も多くあります。この現実を真摯に受けとめ、入学式を始めとする様々な行事が当たり前のように執り行われることは、この上なく幸せなことであると身をもって感じ今も生活しています。

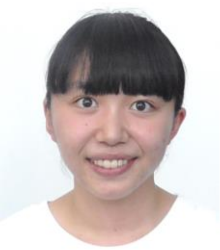
私たちが目指す看護師という仕事は、普段私たちが「当たり前」だと思っていることが、患者様にとって「当たり前では無い」ことが多くあると思います。この三年間を通してたくさんの学びを得ていきますが、こうして新型コロナウイルスによってかつての日常が通用しなくなった今、当たり前だと思っていたことが当たり前では無くなってしまったこのご時世に生きていることそのものが、今までには無い何か大きな学びの一つになるのではないかと考えます。人との距離感やより徹底した感染対策など、社会全体が変化してきているからこそ、医療従事者を志す者として普段からより一層意識して生活する良い機会だと私は考えています。

周囲の人を守る為、自分自身を守る為に考えて生活していくことが、今後予定されている実習や、看護師になってからの患者様との関わり方に大きく影響していくと思います。

このピンチをチャンスに変え、「日常とは何なのか、「当たり前」とは何なのかを普段の生活から考えて、学校で授業を受けられること、仲間と共に学ぶことができること、指導をしていただけることに感謝して、三年間の看護学生生活を送っていきたいです。

災害看護について

3学年（32期生）近藤　有紀



「看護の統合と実践　方法論Ⅰ」の授業で災害看護について学びました。

講義では、災害の種類や災害の時間経過ごとに起こりやすい症状や、その対応について学びました。災害の種類には台風や豪雨による自然災害の他、交通事故といった人為災害などがあります。避けることのできない自然災害も近年多く発生していますが、少しでも被害を少なくしようとする「減災」を図ることで救われる命もあると知り、災害が発生する前から危機管理対策を講じていくことが大切であると感じました。また、災害の時間経過ごとの症状・対応を知ることで看護師として何をしていくべきか、どのような方が支援を必要としているかを学ぶことができました。

演習ではトリアージ訓練を行いました。トリアージをする役・被災者役・観察者役に分かれ、私は被災者役で演習に臨みました。実際に演習を行うことで、救助される安堵感やトリアージまでの不安な気持ち、搬送してもらう経験、搬送してもらっている間の気持ちなどを知ることができました。逆に自分が救助する立場になった時には、安心してもらえるような言葉をかけることや、救助・対応に忙しくても常に丁寧な対応を心掛けることなど、救助する側の心構えも学ぶことができました。

近年では豪雨による水害や土砂崩れ、地震による災害など様々な地域で自然災害が起こり被害に見舞われた方々が多数います。いつ想定外の災害が起こるかわからない今、演習の中で被災者役を経験し、その気持ちを考えることができたことは、今まで被災者経験をしたことのない私にとって貴重な体験であったと感じました。また、今回の講義では災害時支援について学ぶことができました。

実際の災害時には、少しでも支援を必要としている方の力になれるように行動していきたいです。

灯火のリレーを終えて

２学年（３３期生）　綾田　遥香

　五月十四日、「灯火のリレー」が行われました。昨年の四月に先輩方の灯火のリレーを見学させていただいたときに、先輩方の大きな背中を見て憧れを抱きました。これからの一年で先輩方みたいになれるよう、この学校で学んでいこうと決意したことを覚えています。この一年間でどれほど成長できたのかという不安を抱えながら臨んだ灯火のリレーでしたが、灯火を受け取ったクラスメイトの自信に満ちた表情を見た時、この一年間で共に成長をしているのだと実感しました。また、看護師という夢へ一歩近づくことができたと改めて感じることができました。

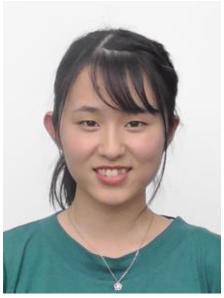
　一年前、トヨタ看護専門学校に入学したときは、新しい学校生活や高校とは違った専門性の高い難しい授業に慣れるのに苦労しました。また、知識を身につける事と並行して基礎看護技術も習得しなければならず、あっという間に一年が過ぎました。

そして、一年次の集大成である基礎看護学Ⅰ期実習を迎えました。初めて患者様を受け持たせていただいて、患者様にどう関わっていけばよいか、どうしたら患者様に安全で安楽な援助を提供できるか、自分なりに考えて実践をしてみましたが思うようにいかず、自分の知識不足や技術不足を痛感しました。自分は看護師に向いていないのではないかと、この実習中に思い悩むこともありました。しかし、支えてくれる仲間や何よりも、患者様からの「ありがとう」という言葉に加え、援助後やコミュニケーション時に見せてくださる笑顔がとても自分の励みになりました。そして、この実習を通して、看護師という職業の魅力と同時に命の重さについても実感することができ、自分にとって非常に意味のある実習にすることができました。

　七月には基礎看護学Ⅱ期実習が始まります。基礎看護学Ⅰ期実習での学びを十分に活かし、取り組んでいきたいと思います。先輩方から受け継いだ灯火を胸に立派な看護師を目指して、三十三期生全員で切磋琢磨していきたいです。また、自分たちが先輩から受け継いだ灯火を来年、後輩に受け継ぐことができるよう精いっぱい努力していきます。

マナー講座での学び

１学年（３４期生）岡本　胡桃



　五月十二日、社会人として、看護師を目指す者としての礼儀作法や身だしなみについて学ぶためにマナー講座が行われました。憧れの看護衣に袖を通し、見慣れない自分の姿に恥ずかしさを感じながらも、目標への一歩を踏み出すことが出来たように感じ、身の引き締まる思いで臨みました。

　私はマナー講座の中で、身だしなみや言葉遣い、礼儀や作法は対人関係の基本であるということを聞いた時、思い出したことが二つあります。

　一つ目は、先生方に対する先輩の言葉遣いです。先輩は先生と会話をする時や電話対応の時、話し方が丁寧で受け応えもしっかりしていて、今の自分との大きな違いを感じました。

　二つ目は、授業をしてくださった講師の方が、「トヨタ記念病院で働いている看護師さんは、どれだけ忙しく働いていても、すれ違う時には付き添いだった自分にも挨拶をしてくださるのでとても気分が良かった」と話してくださったことです。

　これらのことから、私たちの態度や言葉遣いは、周囲の人にもコミュニケーションをとる相手にもしっかりと伝わっていると感じ、今まで以上に日頃から意識すべきことだと思いました。先生や先輩と会話をする時や登下校の際に病院内を通る時など、人と接する場合には、自分の態度に気を配っていこうと思います。

　また、看護衣を着た状態の身だしなみのチェックをした時は、髪型から表情に至るまで多くのチェック項目があり、身だしなみを整えることで私たちの安全性や機能性を確保するだけでなく、相手に与える印象や清潔感など、とても大切なことだと身をもって知ることが出来ました。正しい装いである人は第一印象も良く、相手にも安心感を与えると思います。看護衣を着る時だけでなく普段の学校生活から、目的や状況に合った身だしなみを心掛けたいと思います。

　今回のマナー講座で、私たちがどうして徹底してマナーを守るべきなのか、共通した認識を持つことが出来ました。これからの学校生活に生かしながら、清潔感や安心感のある看護師を目指していきたいです。

卒業生からのお話しを聞いて

2学年（33期生）石川 葵

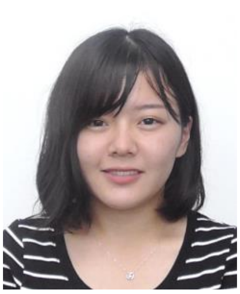
先日、卒業生の方から看護師の実務や学生時代の学校生活についてお話をしていただきました。その中で、学生時代に学ぶ知識や技術の全てが就職後に繋がっていくと聞き、改めて今まで感じてきた辛さや多くの課題には意味があったのだと思いました。それと同時に、これから学ぶ講義や演習の一つ一つに目標をもち、真摯に取り組んでいこうと思い直すことができました。また、病棟で働くにあたって、分からないこと、できないことをはっきり言うことは、自分のためでもあり患者様のためでもあると聞いて、報告・連絡・相談の必要性を強く感じました。一年次の二月に実践した基礎看護学Ⅰ期実習では、グループでの報告や情報共有が上手くいかず、自己の大きな課題となったからです。日頃から自分自身やグループメンバー、患者様に与える影響を考えながら、報告・連絡・相談ができるようにしたいと思います。

七月からは二度目の実習となる基礎看護学Ⅱ期実習が始まりますが、看護過程の展開や、まだ慣れない実習に不安と緊張でいっぱいです。しかしその一方で、患者様との出会いや、実際に援助に入って関われることに喜びを感じています。一人の患者様を受け持ち、長い時間向き合うことができるのは学生の間だけです。この機会を大切にし、学生として今の自分にできることは何かを考えながら、記録や援助だけに捉われず患者様に向き合っていきたいと思います。

入学して一年が経ち、二年生に進級すると講義内容が基礎的なことから、より一層専門的な内容に変わってきました。講義中難しいと感じることも多くなり、自分の知識の少なさや学習面での課題について反省する点が山ほどあると感じています。これから先の学習や実習、国家試験に対し不安もありますが、辛いことを乗り越え看護師として働く素敵な先輩の後を追えるよう、三十三期生の仲間とともに日々努力をしていきたいと思います。

初めての技術練習

１学年（34期生）佐藤　優音



入学してすぐ、コロナウイルス感染症による影響で休校になったり、変則的な時間割になったりして、新たな学校生活に慣れるには少々時間がかかりましたが、無事三ヵ月が経ちました。

初めての技術練習では、ベッドメーキングをしました。患者様が一日の大半を過ごすベッドのシーツを、しわなくきれいにのばしベッドの四隅を折り込んで三角コーナーを作るのですが、実際にやってみるとなかなか上手にできませんでした。練習をただ漠然とやっていても技術は向上しません。ベッドメーキングにはたくさんのポイントがあります。

そのポイントを、先生からのご指導や友達とできていないところの改善点について指摘し合うことで、技術の向上につながります。例えば、友達から「ちょっと腰が高いからボディメカニクスを使った方がいいと思うよ。」と指摘してもらうことで腰を落とすことができ、しわを有効にのばしシーツを最後まで入れ込むことができるようになりました。

実際の病院では、患者様が臥床している状態でベッドメーキングをする場合も多くあるため、技術練習については、事前に援助計画を立てて行いました。しかし援助計画を立ててはみたものの、なかなか行動が伴わず苦戦しました。課題は三つ、患者様の負担を減らすため効率よく援助をすること、清潔・不潔を区別して物品を扱うこと、ベッド周囲の状態など細かく気を配ることです。

効率よく援助するためには作業スペースを確保し、ペアで行う際はお互いに声を掛け合い、次に何をするか考えることが大切です。清潔なものと不潔なものを一緒にしてしまったら、せっかく清潔なシーツなどに変えても意味がなくなってしまいます。患者様によっては体を自由に動かすことができない方もいます。その際にはできるだけ安楽に感じていただけるよう細かい配慮が欠かせません。どうしてこの援助が必要なのか、なぜこの手順で作業を行うのかを考えることで、より安全に作業しやすく、快適な環境を患者様に提供することができます。根拠を持って援助計画を立てることは、様々な援助に繋がっていくと思います。

これからは、教室での勉強だけでなく、実践的な技術の向上のためご指導して下さる先生方から学び、同じ目標を持つ仲間たちと協力し合い、日々努力を重ねていきたいです。そうして患者様に、より快適なケアを提供できるよう、思いやりのある看護師になれるよう努力していきます。

今までの私、これからの私

3学年（32期生）小寺なつき

入学してからあっという間に時が経ち、卒業まで約半年となりました。この二年半を通して多くのことを学び、自分の課題も明確になってきたところで残された時間に向けての抱負が二つあります。

一つ目は、国家試験の学習に力を入れていくことです。模試の成績が例年を下回っていると指導を受けてから、今までの取り組みを振り返り、このままではいけないと強く感じました。そこで週末に模試の解き直しをすることはもちろん、これまでの実習を通して、私は実習と国家試験とを結びつけて考えられていなかったことに気がつきました。受け持ち患者様の疾患や看護だけでなく、他メンバーの受け持ち患者様の疾患についても耳をかたむけて学習をしていくことや、指導者さんに積極的に検査の見学の申し出をすることなど、目で見て体験できる実習の場で自発的に行動し知識を深めていきたいと考えています。また国家試験の学習をしていて疑問に感じた問題を質問すると、的確に答えてくれるクラスメイトからも刺激を受けています。クラスメイトの存在も私に良い影響を与えてくれ、クラスで一丸となり同じ目標に向かって高め合っていきたいと考えています。

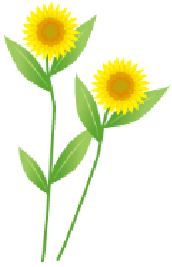
二つ目は、常に相手を柔軟に捉えていくことです。これは患者様だけでなく他メンバーや指導者さん、教員に対しても同じです。これまでの実習では自分の価値観だけで物事を判断してしまうことが多く、患者様への理解が十分に得られていないことや、他メンバーや指導者さん、教員への報告・連絡・相談の場で正しく伝達ができていないこと、助言を自己解釈してしまうことが今の私の課題です。まずは、相手の発言の意味を確認することから始め、その後必要となる改善行動をその都度考えてこの課題を克服できるよう実習に取り組んでいきたいです。

思うように上手くいかず、くじけてしまいそうなことがこの先何度もあると思いますが、クラスメイトや実習メンバーと励まし合い協力しながら日々精進していきたいです。

新任職員あいさつ

金澤 寛明 先生

四月に校長就任し、四ヵ月が過ぎました。私はこれまで十五年間、静岡県立大学看護学部で働いていたのですが、当初定員が一学年五十五名だったのが県の方針で百二十名に増え、さらに二キャンパス制になり、学生の顔が見えなくなってしまいました。それに比べると本学は全員の顔が見える、すばらしいと思っていたのですが、このCOVID-19（新型コロナウイルス感染症）対応でまだ実感できておりません。いずれにせよ、これまでに学んできたことを社会に還元すべくやっていきたいと考えています、どうかよろしくお願いします。



鈴木 徒志江 先生

本年度から、トヨタ看護専門学校でお世話になります。以前までは、トヨタ記念病院の臨床で働いていました。教員としての経験は初めてですが、これまでの経験を生かして学生のみなさんに少しでもたくさんの知識や技能を伝えられるよう努めたいと思っています。しかし学生さんから学ぶことも多く、私自身もまだまだ成長することができるのではないかと思っています。お互いに刺激し合い成長できることを楽しみにしています。まだまだ不慣れな事もたくさんありますが、よろしくお願いします。

第三十四期生 三十三名

令和二年四月二日